

# NEWS

**JAAF**  
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース  
一般財団法人 広島陸上競技協会

第98号

R4.3.31発行

世羅男子連覇!  
大会11回目の栄冠!!

全国高校駅伝男子  
最多優勝を更新



1位でゴールテープを切る世羅のアンカー村上  
写真提供:中国新聞社



# 全国中学校駅伝大会を終えて

●開催日 / 2021年(令和3年)12月19日(日) ●開催会場 / 滋賀県希聖が丘文化公園芝生ランド

## 男子

《総合成績》

# 10位

東広島市立  
松賀中学校

タイム / 59'40"

1区	23位	9'49"	三好 智之
2区	11位	9'38"	新見 春陽
3区	12位	9'50"	前永 蒼登
4区	7位	9'49"	西 啓太
5区	17位	10'24"	渡邊 顕世
6区	24位	10'10"	山内 陸

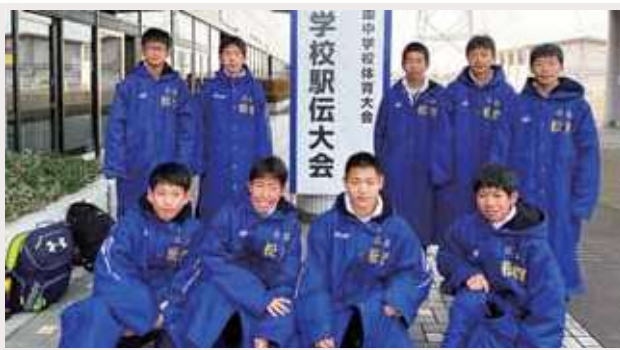


全国駅伝大会への出場は昨年度から部の目標であり、厳しい練習に耐えながら、仲間や先輩たちと頑張ってきました。しかし、去年春からコロナウイルス感染拡大防止のため、部活ができない時期も多くなり、モチベーションを保つことは容易ではありませんでした。それでも、昨年度中国中学校駅伝競走大会で優勝することができたのは、部を引っ張ってくれた心強い先輩方の力があってのことでした。

残念ながら全国駅伝大会は開催されませんでしたが、今年度はその先輩方の悔しさを背負って頑張ろうとみんなで努力してきました。一人一人がどうしたら速くなるのか、チームのためになれるのかを考えながら練習に取り組みできました。速いペースでのジョグ、競い合う流し。部全体で競い合い、高め合ったおかげで、今年度も中国駅伝で優勝することができました。

全国大会に向けて、さらに生活面や食事面にも気を付けていきました。大会当日、一人一人が一秒でも速く走れるよう、全力で襷をつなぎました。結果は10位と入賞には届きませんでしたが、これまで頑張ってきたことは無駄ではないと思います。この大会を通して、学校や地域はもちろん、多くの方たちが応援してくださっていることに改めて気づきました。走らせてもらったことに感謝します。

東広島市立松賀中学校 陸上部 主将(3年) 山内 陸



昨年、21年ぶりに中国中学校駅伝競走大会で優勝することができた。しかし、コロナ禍の中全国大会は中止となった。本番で走ることを目標にしていた先輩方とともに、合言葉にチームの仲間、保護者、地域の方々、学校の先生方の応援、協力のもと練習に取り組み連覇を果たし、全国大会出場を決めることができた。

全国大会本番では、一人一人が自分の力を出し切る走り、あきらめない走りですぐに順位を上げ入賞には一歩及ばなかったが10位でゴールすることができた。また、生徒の思い、成長を感じることができたレースであった。しかし、全国大会のレベルの高さも痛感した。今後、生活面など更なるレベルアップを行い、本当に強い選手を目指し、来年も生徒とともにこの舞台で挑戦したい。

最後に出場に際して、地域、保護者、学校の先生方、ご支援いただいた関係者の皆様、また、コロナ禍で大会を開催していただいたことに心から感謝している。

東広島市立松賀中学校 監督 平賀靖弘

## 女子

《総合成績》

# 17位

福山市立  
鷹取中学校

タイム / 45'28"

1区	31位	11'27"	大住 早永
2区	10位	7'21"	石井 さくら
3区	23位	7'48"	阿吹 遥加
4区	12位	7'42"	佐々木美月
5区	13位	11'10"	秦 結愛



私たち鷹取中学校は、2年間県駅伝大会では2位で全国大会に出場することができませんでした。

こうして始まった新チーム。力のある1年生が入部し、もう一度掲げた目標は「県駅伝で優勝して、全国大会に出場する」でした。そこからは、大好きなお菓子やジュースの禁止。後半ペースアップする練習を軸に競い合いながら力をつけました。こうして迎えた県駅伝では悲願の初優勝をすることができました。そこからは全国大会に向けて「8位入賞」を目標に練習をしました。

全国大会では、17位と目標を達成することはできませんでした。しかし、その結果は全員が頑張ったからこそ出せた結果です。また、地域の方々や先生方、家族、友達のたくさんの応援がとても心強く私たちの力となりました。感謝の気持ちしかありません。ありがとうございました。

3年生は、新たな目標の実現に向けて、1・2年生はもう一度全国大会に出場し入賞することを目標に再スタートしました。これからもチーム鷹取を応援よろしくお願いします。

福山市立鷹取中学校 陸上部 主将(3年) 佐々木美月

まずは、全中駅伝開催にご尽力頂いた関係者各位に感謝申し上げます。「福山から全国へ」目標を掲げて生徒とともに走り出した。私たち鷹取中学校女子駅伝チームは県駅伝へ初出場した4年前から



の夢の舞台への切符を掴むことができた。この一年間、練習がまとまって行えない時期や故障者・貧血が出てしまうしんどい日々もあった。しかし、鷹取中学校の先生方や地域・治療院や陸上顧問の諸先輩方のアドバイスを始め、保護者が一番の理解者・応援者としてサポートをして頂き、日々の練習に自信を持って取り組むことができた。子どもたちは私生活でも不摂生を禁じるなど自分に厳しくこの日のために全てを捧げてきた。個人の努力が一番だと思うが、卒業生たちが繋いでくれた「心の襷」や多くの応援が後輩たちの走りを後押しし、県大会での3秒差を勝ち切る要因になったのだと思う。感謝の気持ちを胸に、全国大会を迎えた。昨年の三原第五の分もと意気込んだが、結果17位と全てを出し切れず全員が涙のレースとなった。条件はどこも同じ。本番で力を出し切れなかったことは指導者の責任。しかし、諦めずに前を追う魂のこもった襷リレーに鷹取らしい走りはできた。泣きじゃくる子どもたちの姿に「胸を張って福山に帰ろう。そしてこの悔しさはまたここに帰ってくるしかない。」と話した。全国での経験は人生の宝物になっていくだろう。ここでしか味わえない経験をもう一度掴み、挑戦する。

福山市立鷹取中学校 監督 白神一輝

## 年代別レポート

### 小学生

2021年のシーズンもコロナの影響を受けたが、新たに、3つの広島県記録が誕生した充実したシーズンでもあった。

●三好美羽さん(竹尋アスリート)

女子100m 12秒71

●佐々木優空さん(アクアパーク)

女子ジャベリックボール投げ52m74、女子コンバインドB 2042点

広島県記録を樹立した三好美羽さんは、第37回日清カップ全国小学生陸上競技交流大会において、6年女子100mで2位に、佐々木優空さんは、同大会で女子コンバインドB 5位と全国的な活躍を見せた。二人の強さの特徴は走・跳・投のいずれも好記録を出していることである。これまでの練習で様々な動きを経験し、バランスよく鍛えられていることがうかがえる。日本陸連は、有力選手の運動歴等から、ジュニア期は種目を絞らずに、様々な種目を経験することを推奨している。小学生からの新種目(ジャベリックボール投げ、コンバインド種目、混合リレーなど)の導入はその流れと言える。これまで、既存種目の標準記録を定め、標準記録に達した選手を「標準記録達成賞」として表彰していた。一昨年度より、新種目に対応するために種目別のランキング表を作成して、10位までのランキング上位者を表彰する「ランキング賞」として表彰している。少しでも、裾野が広がり、様々な種目の挑戦への励みになればありがたい。

広島陸上競技協会指導・普及委員会  
委員長 石川 和明

### 中学生

3月26日・27日に、第4回広島県中学生記録会が開催された。1月に予定されていた駅伝、ロードレース、記録会が中止となったため、選手たちにとってこの記録会が、久しぶりの実戦の場となる。今シーズンを振り返ると、新型コロナウイルス感染症の拡大により地域によって多少の差はあるが、部の活動としては1年の半分程度しかできなかったのではないと思う。部活停止中、自主的に練習する子どもたちを見かけたが、頑張る子どもたちの姿にエールを送りたくなった。また、指導者にとっても部員とのコミュニケーションをどう取るかの工夫や、生徒一人一人のモチベーションを高めるために試行錯誤の日々を過ごしてきたと思う。昨年に続き活躍の場は限られたものになったが、地区大会、県大会、全国陸上選手権大会、全国駅伝大会は開催された。大会の開催に向け、ご尽力いただいたすべての関係者の皆様に感謝したい。全国中学校駅伝が終わり、来年度に向けての強化はスタートしている。冬季休業中の12月24日から26日までの3日間、感染症対策を施しながら、1、2年生を対象とした長距離選抜合宿を実施した。山口県のセミナーパークで行ったが、公園内にある、クロスカントリーコースや陸上競技場が利用できる練習環境の整った場所である。例年、中体連主催の選抜合宿は夏と冬に2回実施している、今回は2年ぶりの開催である。参加した生徒が合宿を通じて、集団生活やいろいろな指導者の話が聞けたこと、同年代とレベルの高い練習をこなすことができた経験は貴重である。これから共に切磋琢磨してお互いを成長させる仲間として、そしてチーム広島のレベルアップに向けて、久しぶりの合宿は、その重要性やその価値を改めて感じるものとなった。

東広島市立安芸津中学校  
鈴木 晶雄

### 高校生

今シーズンはいくつかの競技会・合宿は中止となりながらも、昨年中止を余儀なくされた競技会・合宿が感染予防対策を講じつつ開催されるなど、選手の輝ける場や研鑽を積み重ねる場が徐々にではあるが戻ってきたシーズンであった。7月28日から8月1日にかけて福井県営陸上競技場(9.98スタジアム)で行われた全国高校総体(インターハイ)には、広島県からは26校96名が参加した。男子5000mでコスマス・ムワング(世羅)が見事な大会新記録で優勝した。女子やり投では村上碧海(西条農)が昨年広島で行われた全国高校2020に続いての優勝で全国大会連覇を果たした。その他にも、女子100mHでは浅木都紀葉(広島皆実)が2位、男子400mHで原田響(広島皆実)、女子100mで宮本紗弥(福山葦陽)がそれぞれ8位に入賞した。また、女子4×100mRでは惜しくも決勝進出はならなかったが、広島皆実(俣山・浅木・斎藤・田口)が46"64の県高校新記録を更新した。12月26日に京都市で行われた全国高校駅伝には、今年も男女とも世羅高校が出場。男子は1区森下が区間賞の走りでも最高の滑り出し。3区ムワングも区間賞の走り続き。4区吉川は、一度は後続に追いつかれながらも後半突き放す好走。以後も安定した走りでもタスキをつなぎ、アンカー村上がダメ押しの区間賞で見事に2連覇のゴールドテープを切った。記録も史上2番目の好記録で、さらにこの優勝で世羅は最多優勝回数に11回に更新した。女子は、1区山田が32位で2区へ。2区續子が3つ順位を上げるも、その後は健闘しながらもなかなか順位を上げることが出来ず。アンカーの細迫が31位でゴールした。また、12月26日から28日の3日間、広島県総合グラウンド陸上競技場で日本陸連U-19強化研修会全国高等学校体育連盟陸上競技専門部強化合宿「中国地区合宿」が行われ、中国5県から選手233名をはじめ、本部役員、コーチ、引率指導者を含め合計321名が参加した。各種目別の練習もさることながら、2日目には男子100m日本記録保持者で東京五輪代表の山縣亮太選手(SEIKO)による「高校生に伝えたいこと」をテーマとした講習会を実施するなど、大変充実した内容の合宿となった。4月から新しいシーズンが始まる。新型コロナウイルスの今後の感染状況は見通せず、生活への制限はこれからも続くと思われる。しかし、その中で出来ることを確実に積み重ねていながら、選手諸君がそれぞれの目標に向かって精進していかれることを心から願っている。

広島県高体連陸上競技部 事務局長  
五日市高校 野崎 秀和

### 学生連盟

昨年の10月に行われた中国四国学生陸上競技選手権大会はコロナ感染対策を講じながら無事開催することができた。また今大会は広島開催のため広島県学連が中心となって運営を行い、県内の大学の協力により、学生審判等の人数確保ができた。今大会は夏の暑さが残る時期であったが、協力してくださる大学が多かったことは、非常にうれしい限りである。さらに今大会のMVPは広島経済大学の山崎優希さんが受賞されており、これからの山崎さんの更なる活躍に期待したい。年が変わり、3月中旬に東広島で開催予定になっていた広島県学連競技会は残念ながらコロナの感染拡大や蔓延防止措置等の問題により、今回も開催することができなかった。ここ数年コロナ関係で広島県学連主催の大会が中止になるのは非常に残念であり、来年度の広島県学連競技会が無事に開催されることを祈るばかりだ。4月から年度が変わり新体制で練習や大会に臨む大学が多く、広島県学連としても円滑に大会運営が行えるように取り組んでいきたいと思う。6月開催の県学生陸上競技選手権兼県実業団陸上競技選手権

大会の合同競技会、10月広島県開催の中国四国学生陸上競技選手権大会、来年3月開催の広島県学連競技会の3大会は本学連主催のため、コロナ等により大会が無くならないことを祈りつつ、他大学の協力を得ながら大会成功に向けてがんばっていきたい。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部  
幹事長 竹井 寿明

### 実業団連盟

#### 2021年度駅伝・マラソンシーズンを振り返って

昨年11月のクイーンズ駅伝(宮城)では、創部3年目にして初出場を果たしたダイソーが、4区テレシア・ムッソニ選手(世羅高出身)の区間タイ記録の快走などにより21位でゴール。また、エディオンは入賞にはあと一步届かなかったが11位と健闘した。元日のニューイヤー駅伝(群馬)には4チームが出場し、14位マツダ、16位中国電力、17位中電工、36位JFEスチールとなった。マラソンでは、12月、福岡国際マラソンにおいて、二岡康平選手(中電工)が7位(2:09:14)に入った。2月の別府大分毎日マラソンでは、相葉直紀選手(中電工)が5位(2:08:44)、兼実省伍選手(中国電力)が9位(2:10:02)に。大阪マラソン・びわ湖毎日マラソン統合大会でも、ベテランの岡本直己選手(中国電力)が5位(2:08:04)、山本憲二選手(マツダ)が7位(2:08:38)になった。また、3月の名古屋ウィズメンズマラソンでは、細田あい選手(エディオン)が4位(2:24:26)と、多くの選手が国内メジャー大会で入賞をした。また、この結果により、2023年秋に開催されるパリ五輪マラソン日本代表選考会「マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)」の出場権を相葉選手と岡本選手と細田選手が獲得。今後、さらに多くの選手がMGCの出場権を獲得する可能性があり、来シーズンの活躍を期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟  
山下 里恵



↑クイーンズ駅伝初出場のダイソーチーム(2区加藤美咲選手)

### マスターズ連盟

#### 2年連続優勝おめでとうございます!!

全国高校駅伝・男子で県代表の世羅高校が、2連覇で、歴代最多を更新する11回目の優勝を飾り、世羅は強かった。やっぱり、母校でなくても、同県の学校が活躍しているのは、嬉しい。これからも「駅伝の里世羅」を見せてほしい。新型コロナの感染拡大で広島県でもまん延防止等重点措置が延長されたことにより、広島マスターズ陸上競技連盟は1月30日定期総会も出席者の安全を第一に書面決議で実施した。今年も6月12日びんご運動公園で「第40回広島マスターズ選手権大会」を予定している。三年振りに開催してマスターズ陸上に希望の光を届けたい。皆さんシーズンインを待たれてトレーニングに励んでおられる事でしょう。私も気を緩めることなくコロナに感染しないよう、夢に向かって頑張りたいたいと思う。そして一日でも早くコロナが治まることを願っている。皆さんも頑張りましょう。

広島マスターズ陸上 広報  
磯村 公三

# 一般財団法人広島陸上競技協会 受賞者名簿

## 叙勲褒章

旭日中授賞 山本 靖雄(広島陸上競技協会顧問)  
旭日中授賞 石田 恒夫(広島陸上競技協会顧問)

## 文部科学大臣表彰

大竹市陸上競技協会(生涯スポーツ優良団体)

## 公益財団法人 日本陸上競技連盟栄章

高校優秀指導者章 中川 久枝(世羅高等学校教諭)  
中学優秀指導者章 白神 一輝(鷹取中学校教諭)  
高校優秀選手章 迫田 力哉(西条農業高校→日本大学)  
中学優秀選手章 江原 美月優(鷹取中学校→神辺旭高校)  
安藤百福記念章 岩崎 真由美(府中空城陸上クラブ)

## 公益財団法人 広島県スポーツ協会スポーツ賞 【功労者の部】

● 隴本 武直(広島陸協) ● 野崎 秀和(広島陸協)  
● 大林 和彦(広島陸協) ● 山田 夏江(広島市スポーツ協会)  
● 大之木洋之介(呉市体育協会) ● 亀本 誠(広島県スポーツ少年団)

## 一般財団法人 広島陸上競技協会

### 【功労者の部】

● 高津 真廣(広島市) ● 杉野 雅博(広島市) ● 大前 隆之(広島市)  
● 石津 剛(大竹市) ● 横山 知史(呉市) ● 西 雅博(尾道市)  
● 池田 久江(庄原市) ● 香渡 清則(竹原市)

### 【優秀選手賞】

#### 《国際大会の部》

● テレシア・ムツソーニ(ドイツ)  
第18回U20世界陸上競技対校選手権大会(8月19日・ナイロビ)  
女子3000m 優勝 8分57秒78

#### 《国内大会の部》

● 安立 雄斗(福岡大)  
2021日本学生陸上競技個人選手権大会(6月6日・平塚)  
男子三段跳 優勝 15m81  
● コスマス・ムワンギ(世羅高)  
第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(7月31日・福井)  
男子5000m 優勝 13分43秒63  
● 谷本 七星(名城大)  
第37回U20日本選手権陸上競技選手権大会(6月26日・長居)  
女子3000mSC 優勝 10分13秒49

● 村上 碧海(西条農業高)  
第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(7月31日・福井)  
女子やり投 優勝 53m07  
● テレシア・ムツソーニ(ドイツ)  
全日本実業団対抗女子駅伝競走大会(11月28日・仙台)  
第4区区間賞 10分53秒 **区間タイ**

### 【新記録賞】

#### 《日本記録》

● 藤野 浩一(ヤンボーSC)  
男子マラソン(M45) 2時間24分25秒  
第76回びわ湖毎日マラソン(2月28日・皇子山谷)

#### 《広島県記録》

● 藤川 拓也(中国電力)  
男子30Km 1時間29分23秒  
第76回びわ湖毎日マラソン 通過記録(2月28日・皇子山谷)  
● 安立 雄斗(福岡大)  
男子三段跳 16m20  
第90回日本学生陸上競技対校選手権大会(9月19日・熊谷)  
● 小滝 萌子(九州共立大)  
女子300m 40秒67  
九州共立大チャレンジ(10月23日・九州共立大)  
● 鷲頭 一華(比治山女子高)  
女子300m 40秒79  
第4回東広島市記録会(8月8日・東広島)  
● 榎原 沙紀(筑波大)  
女子1500m 4分13秒82  
東京デスティイベント(5月9日・国立)  
● 鷲頭 一華(比治山女子高)  
女子300m 44秒19  
第15回U18陸上競技大会(10月23日・松山)

#### 《中四国学生記録》

● 片山 直人(環太平洋大)  
男子1500m 3分40秒90  
第125回日体大競技会(10月10日・日体大)

#### 《広島県高校記録》

● 迫田 力哉(西条農業高校)  
男子ハンマー投 67m22  
日大競技会(3月27日・日大)  
● 高橋 昂生(県立広島高校)  
男子八種競技 5535点  
第26回エブリパティエテカスロン愛知(11月13日~14日・瑞穂北)  
● 宮本 紗弥(福山葦陽高校)  
女子100m 11秒75  
第60回広島県高等学校新人陸上競技大会(9月18日・東広島)  
● 山本 千菜(宮島工業高校)  
女子100m 11秒81  
第5回広島県高校学生記録会(10月30日・東広島)  
● 山本 千菜(宮島工業高校)  
女子200m 24秒41  
第74回中国高等学校陸上競技対校選手権大会(6月20日・山口)

● 鷲頭 一華(比治山女子高)  
女子300m 40秒79  
第4回東広島記録会(8月8日・東広島)  
● 山本 千菜(宮島工業高校)  
女子300m 40秒93  
第74回広島県選手権大会(6月27日・広島広域公園)  
● 浅木 都紀葉(広島皆実高校)  
女子100m 13秒53  
第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(8月1日・福井)  
● 鷲頭 一華(比治山女子高)  
女子300m 44秒19  
第15回U18陸上競技大会(10月23日・松山)  
● 堂前 咲希・相方 紫帆・森脇 叶美・清水 鈴奈(神辺旭高校)  
女子4×100mR 46秒78  
第74回中国高等学校陸上競技対校選手権大会(6月18日・山口)  
● 俣山 渚・浅木 都紀葉・齊藤 菜々美・田口 紗英(広島皆実高校)  
女子4×100mR 46秒64  
第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(7月29日・福井)  
● 堂前 咲希・相方 紫帆・江原 美月優・清水 鈴奈(神辺旭高校)  
女子4×100mR 46秒86  
第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(7月29日・福井)  
● 山本 つき・山本 千菜・黒川 星空・山根 千歩(宮島工業高校)  
女子4×100mR 46秒99  
第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(7月28日・福井)

#### 《広島県小学生記録》

● 三好 美羽(竹尋アスリート)  
6年女子100m 12秒71  
第1回東広島記録会(5月5日・東広島)  
● 佐々木 優空(アリアパーク)  
女子ジャベックボール投 52m74  
"日清食品カップ"広島県小学生陸上競技交流大会2021(7月4日・東広島)  
● 佐々木 優空(アリアパーク)  
女子コンバインドB 2042点  
"日清食品カップ"広島県小学生陸上競技交流大会2021(7月4日・東広島)

### 【特別賞】

● 山縣 亮太(セイコー)  
男子100m 9秒95 **日本新記録**  
布勢スプリント2021(6月6日・布勢)  
【特別賞】東京オリンピック審判員(NTO)  
● 奥村 恵美子(広島経済大学/職員) ● 小早川 嵩(口田中学校/教諭)  
● 新宅 昭二(世羅高校/教諭) ● 二反田 亘(進徳女子高校/副校長)  
● 萩原 翔(尾道商業高校/教諭) ● 浜崎 正信(基町高校/教諭)  
● 松崎 親男(広島工業大学/教育学習支援センター)

## 東京2020オリンピック・パラリンピックに 競技役員として参加して

広島経済大学 奥村恵美子

東京2020オリンピック・パラリンピックではマーシャル(主に跳躍種目)を担当させていただいた。関係者以外の競技場内への入場規制を行うことはもちろん、競技中、監督コーチ陣からの助力の確認、アスリートのトイレ同行、競技終了後ミックスゾーンまでの退場の指示、誘導などの業務に加え、コロナ対策として競技中以外全ての場面でマスクの着用や手指消毒をお願いした。常に目くばり、気くばり、心くばりで周りを見渡しアスリートファーストの精神でアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう心がけた。担当した跳躍種目の中で特に感銘を受けたのが男子棒高跳である。世界の頂点を目指して集まったアスリートたちが、競技中互いのパフォーマンスを認め、たたえ合い、拍手やハグをする姿を目の当たりにし、自分だけが高みを目指すのではなく、相手を尊重し、皆でより高い記録を目指すライバルであり仲間であることを強く感じた。また、競技終了後、多くのオリパラアスリートが裏方である私たち競技役員に対して「Thank you」という言葉をかけてくれた。メダリストも、満足がいくパフォーマンスが出来なかったアスリートも、競技以外でも人間性の素晴らしさを持ち合わせた真のアスリートが集結する世界大会であることを認識した。陸上競技を通じて競技力はもちろんであるが、人として成長できる競技生活を過ごせるよう、1ヶ月間国立競技場で感じ経験したことを学生たちに還元していきたい。



走ることが好き、歩くことが好き、  
走る人を応援することが好き、  
ワクワクするその気持ち  
そう！あなたも陸女!! RIK☆JO



## 青少年の夢を応援します!

### 青少年健全育成協力企業

- 中国電力株式会社
- 朝日医療専門学校広島校
- 株式会社大創産業
- 株式会社ツルハグループ
- ドラッグ&ファーマシー西日本

- 広島駅弁当株式会社
- 広島管公学生服株式会社
- 株式会社中電工
- ライオン株式会社
- アシックスジャパン株式会社
- 大塚製菓株式会社広島支店
- 株式会社ツルハグループ
- 創建ホーム株式会社

- 株式会社ひろぎんホールディングス
- JR西日本プロパティーズ株式会社
- 広島ダイヤモンドホテル
- 株式会社もみじ銀行
- 株式会社リブボックス
- 株式会社いどや
- 株式会社ウイズアート
- 株式会社コマックス

- 株式会社体育社
- 株式会社ニシスポーツ
- 株式会社BTM
- 広島ガス株式会社
- 広島経済大学
- 広島信用金庫
- デサントジャパン株式会社
- 有限会社道後山高原サービス

### 特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス

(順不同)